

広報 かわの

令和2年12月1日 第3号

■複合化等の検討案 鈴鹿市の 実行計画書に位置づけられる

10月2日、鈴鹿市ホームページに『鈴鹿市総合計画2023 後期基本計画実行計画書』が公表されました。

これによると、令和2～3年の2ヶ年の間に河曲公民館・河曲地区市民センターの改築又は複合化の検討を行うことが、また、令和5年度には河曲小学校の校地測量・登記業務を行うことが、上記の実行計画書に「位置づけ」られました。

鈴鹿市においては、この実行計画書に「位置づけ」られることが、事業実施の段階に進むための大前提となります。

さらにこれとは別に、本年7月に公表された『鈴鹿市公共建築物個別施設計画』には、令和6年度から令和9年度の4ヶ年以内に河曲小学校校舎棟の長寿命化改修及び屋内運動場（体育館）の改築を行うこと、が明記されました。

これらは、これまで地域住民と自治会総代会及び地域づくり協議会が一体となって要望活動や署名運動を行ってきた成果であり、協議会としては、今後の市の動向に注視しつつ次なる行動に結び付けていきたいと考えています。

岡田名誉教授 古代史を彩 る大鹿氏一族の事績を講演

11月15日午後、国分町レインボー会館で皇學館大学の岡田登名誉教授による「伊勢大鹿氏について」と題した講演会、並びに整備も進んで端正な姿が新聞で話題の「富士山1号墳」の現地説明会がありました。

富士山1号墳は前方後円墳のうち、前方部が短い「帆立貝形」古墳であると判ってきました。墳丘頂上での先生のお話（右の写真）では、都で没した人を故

郷に迎えて弔う「帰葬」の場としたものか、前方部が広く低いことがこの古墳の一番の特徴とのこと。

また後円部の盛土が三段築成になっていること、各段の縁辺には埴輪が埋まっているはず、後円部の高さから推して横穴式石室が残っている可能性もある、被葬者は北枕が一般的、また足元に転がる大きな河原石や礫石を見つけて、これらは墳丘斜面を蔽っていた葺石であろう、など1500年の時の隔たりを忘れる興味深い解説が続きました。

1時間の説明会のあと、会館に戻って90分間、先生の講演を拝聴しました。すなわち大鹿首（オオカノオビト）小熊の娘菟名子（ウナコ）が、第34代舒明天皇の皇祖母になって以来、都との繋がりが強くなったこと、大鹿氏一族の事績が古事記、日本書紀から吾妻鑑に到るまで書き続けられていて、河曲を発祥としつつ伊勢国を代表する豪族であったこと、その流れは天智天皇や天武天皇を経て令和の現在も生きていることなど雄大な歴史のお話がありました。

なお地区ではこれに先立ち、11月1日、地域の60余名がボランティアで富士山（フジヤマ）の大掃除を行い、晴れの見学説明会デビューに備えました。

また、伐採作業で残しておいた立木を活かしたお洒落な案内板が60名の見学者を出迎えていました。



国勢調査 100 年

大正9年10月1日

河曲の第1回国勢調査

■ 紆余曲折

令和2年10月1日、第21回国勢調査が実施されました。大正9年10月1日に第1回調査が行われて以来、101年目のことでした。

国勢調査施行には紆余曲折がありました。明治12年、統計学に秀でた杉亨二の意見を踏まえ、山梨県で試行されたのですが、高額出費ゆえに頓挫します。

次いで国会開設を以て法整備が進み、明治35年に万国統計協会と歩調を合わせて国勢調査実施法が成立するものの、実施予定の明治38年は日露戦争とぶつかってお流れとなります。

大正4年に再び計画されますが、第一次世界大戦の混乱で見送られてしまいます。ようやく大正6年、内閣統計局が本格的に動いて実施要綱を決定し、大正9年を期して「国家致富ノ淵源」を念頭に全国一斉で実施、の運びとなります（総務省HPより）。

■ 原敬首相の主導で第1回調査

第1回調査は国家の威信を懸けた事業でした。原敬首相の主導により全国で当該地の大字区長など26万人の調査員が任命されました。

国勢調査は文明国の鏡、一家の為は一国の為、申告は一に正直二に正確、さらには、亭主は我が儘 私は気儘 国勢調査は有の儘、など硬軟種々の標語が飛び交う中、

「国勢調査は国家社会及国民生活の実情を審にし善政の基礎を作るに在り」

「調査は全国一斉に一人一人に就いて実地の調査を行ふに在り 各世帯主は十月一日午前八時までに申告書用紙に記入し調査員に提出すべきこと」

などを告知のうえ、完璧な体制で臨みました。

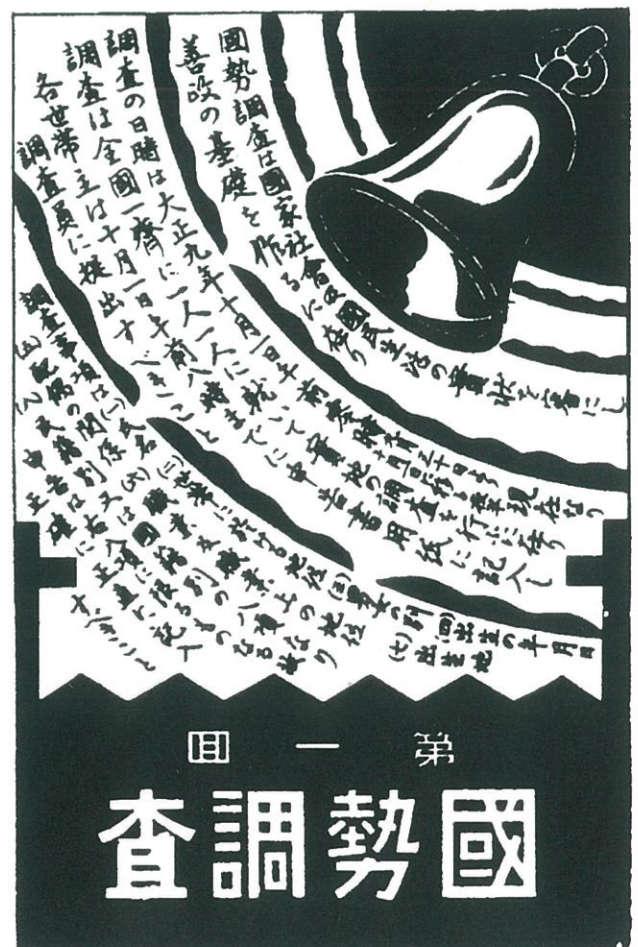
■ 河曲での調査

「国家致富ノ淵源」を謳う第1回調査は全国一斉ゆえに、日本全土に国家組織体制が完備されたことを物語る画期的事業でした。調査項目は1) 氏名、2) 世帯に於ける地位、3) 男女の別、4) 出生の年月日、5) 配偶の関係、6) 職業及び職業上の地位など8項目に及びました。結果、日本の総人口は内地人口55,963,053人、外地人口 21,023,236人と判りました。

河曲村では森下石松村長のもと、万遺漏なきを図り、村会議員12名の協力を受けつつ、各大字8区長が調査員を務めました。須賀区長村田豊吉によれば、調査の際には「本邦最初ノ事業ナルヲ以テ九月十日ニ予備調査トシテ練習ヲ」行ったうえで10月1日の本番に臨んだと日記に書き残しています。後日、関係8区長にはその労への感謝状と銅メダルが贈られました。第1回結果のうち人口に係る数値は別表(1)の通りです。

■ その後

国勢調査は5年毎が基本です。国の基本統計ゆえにこのサイクルは不動であるべきですが、昭和20年10



第一回国勢調査記念絵葉書

月予定の第6回調査は敗戦直後の混乱で見送られ、昭和22年10月に臨時調査の形態をとりました。その後は正規のサイクルに戻り、今日に至っています。

今回の令和2年10月調査は、調査員50名により地区内74調査区について、事前の戸別訪問等により一連の流れを説明し、書類を渡し、書面回答に加えてインターネット回答が至って簡便、など紹介したうえで行われました。

河曲地区にかかる過去100年間の世帯数と人数について、5年毎の推移を数値と棒グラフで表すと別表(2)(3)となります。この間、河曲は世帯数でおよそ8倍、人数で4倍と増えますが、核家族化の波のなかで人口減少化の兆しも見えています。

(1) 第1回國勢調査 大正9年10月1日

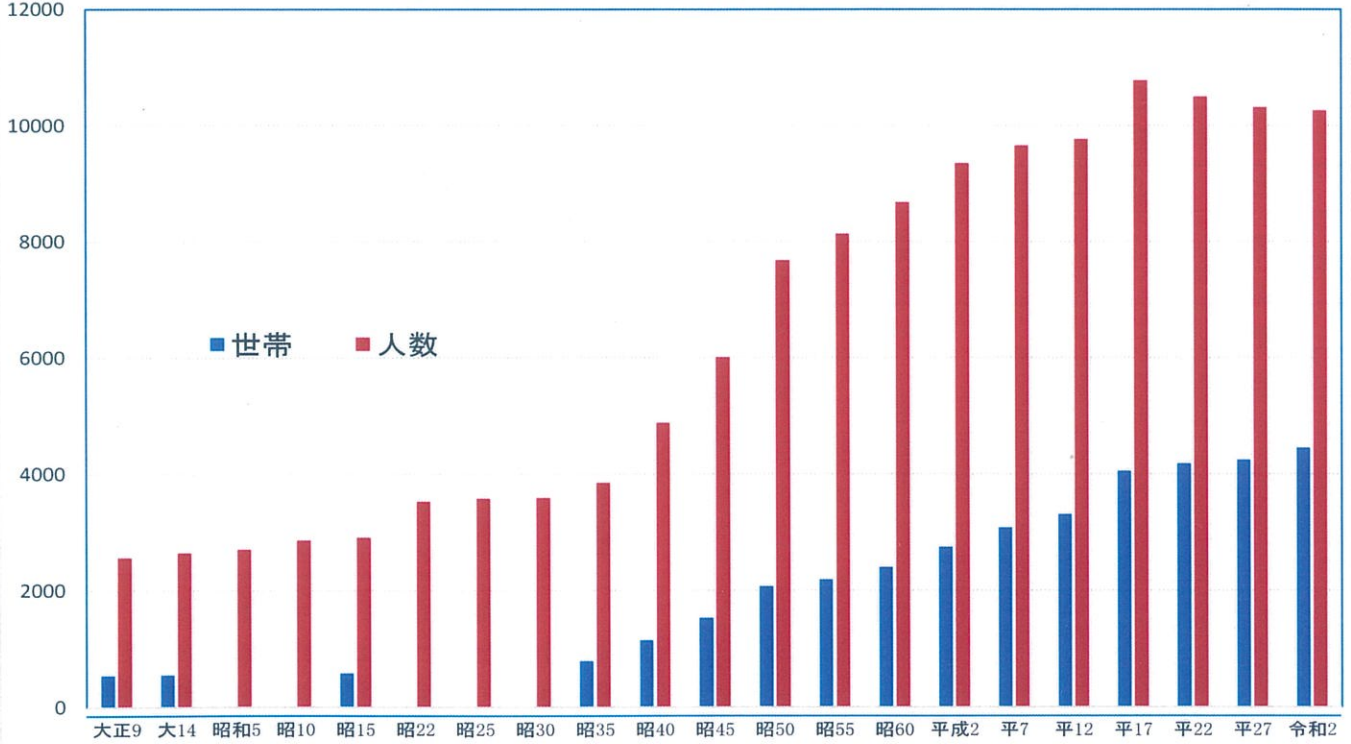
調査区	調査員	世帯	男	女	合計
1 河田	浦川重吉	58	115	132	247
2 野辺	田中卯之助	54	138	144	282
3 竹野	山際吉五郎	46	137	115	252
4 山辺	森下卯之助	34	87	90	177
5 国分	生川為造	92	227	227	454
6 木田	永戸平吉	89	208	198	406
7 十宮	古市延次郎	46	91	95	186
8 須賀	村田豊吉	127	270	290	560
	合計	545	1273	1291	2564

(2) 過去100年間5年毎の世帯人数値

回	年度	世帯	総数	男	女
1	大正9	545	2564	1273	1291
2	14	556	2646	1301	1345
3	昭和5		2707		
4	10		2863	1391	1472
5	15	583	2911	1411	1500
6	22		3526		
7	25		3580		
8	30		3592		
9	35	790	3848	1860	1988
10	40	1145	4873	2415	2458
11	45	1530	6006	2995	3011
12	50	2072	7679	3816	3863
13	55	2181	8131	4114	4017
14	60	2541	8677		
15	平成2	2748	9351		
16	7	3080	9649	4793	4856
17	12	3308	9765		
18	17	4055	10773	5363	5410
19	22	4182	10491	5246	5245
20	27	4245	10311	5112	5199
21	令和2	4452	10254	5113	5141

(空欄は記録資料未詳のため)

(3) 過去100年間の世帯数・人数の推移





■サテライト型防災訓練 コロナを警戒しながら

11月8日、地域住民の防災意識の高揚を図りつつ、災害発生時には自助共助の態勢を速やかに立ち上げられるよう、地域づくり協議会と総代会を軸とするサテライト型訓練が行われました。

今回はコロナ対策として三密を避けるため、各地区とも指定避難場所への集合と安否申告のみとなりました。避難時の物資供給も事前配布で済ませ、受け取り業務を軽減する配慮がとられました。

地区センター広場の本部では、早朝より河曲消防分団々員、センター・公民館職員、地域支援職員、協議会役員等が緊急避難所を開設し、各地区からの参加者数の電話連絡に備えました（写真は本部詰め29名）。

今回は新たに民生委員による要援護者の避難人数の把握も実施されました。

サテライト型防災訓練 地区別参加者			
地区	人口	参加者	参加率
河田	421	94	22.33%
野辺	1122	228	20.32%
竹野	1846	120	6.50%
山辺	323	71	21.98%
ラウムズ		34	
木田	871	117	13.43%
大谷		51	
国分	932	142	15.24%
采女が丘	26	0	0.00%
十宮	3365	356	10.58%
須賀	1348	256	18.99%
合計	10254	1469	14.33%

各地区の参加率は別表のとおりです。コロナの影響で出足が懸念されましたが、全体では14.33%となって昨年度14.46%とほぼ同じ訓練数値でした。

交通安全対策整備で合意 近鉄4号踏切など改修へ

9月14日、Zone30区域に指定されている河曲神戸地区を、来年度、国の新規整備事業対象区に格付けするため、県と市の道路管理者、警察、教育委員会、地元関係者として河曲地区及び神戸地区地域づくり協議会、など関係4団体が出席して「交通安全対策整備検討会議」が開かれました。

討議の結果、満場一致で事業案が合意され、国県市3庁の予算措置をまって令和3～5年度内に安全通行確保のため、近鉄4号踏切の拡幅整備、神戸中学西側県道の河田～木田間通学路に防護柵設置など交通環境が大きく改善される運びとなりました。



河曲地区地域づくり協議会広報紙

『広報かわの』第3号 令和2年12月1日発行

発行責任者 河曲地区地域づくり協議会 事務局長
事務局 河曲公民館地域部屋 電059-390-1295